

# MMR ワクチン

## 知っておくべきこと

(麻疹、流行性耳下腺炎、風疹)

Many Vaccine Information Statements are available in Spanish and other languages. See [www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)

多数のワクチン情報文書を、スペイン語およびその他の言語でご利用いただけます。  
[www.immunize.org/vis](http://www.immunize.org/vis)をご覧ください

### 1 ワクチン接種を受ける理由

麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふく風邪）、風疹は重篤な感染症で、ワクチン導入前は特に小児の間で極めて頻繁に流行していました。

#### 麻疹（はしか）

- 麻疹ウイルスは発疹や咳、鼻水、目の炎症、発熱を引き起こします。
- 中耳炎や肺炎、発作（けいれんおよび凝視）、脳損傷、死亡につながる場合もあります。

#### 流行性耳下腺炎（おたふく風邪）

- 流行性耳下腺炎ウイルスは、発熱や頭痛、筋肉痛、食欲減退、リンパ腺の腫れを引き起こします。
- 難聴や髄膜炎（脳および脊髄膜の感染）、睾丸または卵巣の痛みを伴う腫れ、また稀に不妊につながる場合があります。

#### 風疹（三日ばしか）

- 風疹ウイルスは発疹や関節炎（主に女性）、軽度の発熱を引き起こします。
- 妊娠中の女性が風疹にかかると、流産や重篤な先天異常につながるおそれがあります。

風疹は空気を介してヒトからヒトへと感染するため、すでに感染した人の周囲にいるだけで簡単に感染してしまいます。

麻疹、流行性耳下腺炎、風疹（MMR）ワクチンは、小児（および成人）をこれら3種の感染症から保護します。

ワクチン接種プログラムが功を奏し、米国におけるこれら感染症の流行レベルはプログラム実施前に比べ非常に低くなっています。しかし、ワクチンの接種を中止すれば再流行が発生するでしょう。

### 2 MMR ワクチン接種を受けるべき理由と接種時期

小児はMMRワクチンの接種を2回受ける必要があります。

- 1回目の接種：生後12～15か月
- 2回目の接種：4～6歳（1回目の接種から28日後以降であればこれ以前に接種することも可能）

生後12か月未満の幼児であっても、国外に旅行する場合はMMRの接種が必要となります。（この接種は定期接種の1つとしては考慮されません。）

一部の成人に関しても、MMRワクチンの接種が必要となります。通常、1956年以降に生まれた18歳以上の成人は、これら3種すべての感染症のワクチンを接種した、あるいは3種すべての感染症に罹患したことが明らかである場合を除き、MMRワクチンの接種を少なくとも1回受ける必要があります。

MMRワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能です。

1～12歳の小児は、MMRVと呼ばれるMMRと水痘（水疱瘡）ワクチンを含む「混合」ワクチンの接種を受けることができます。MMRVには個別のワクチン情報文書が用意されています。

### 3 MMR ワクチン接種を受けるべきではない、または接種時期を延期すべき人物

- 抗生物質ネオマイシンまたはMMRワクチンのその他の成分に対し、命を脅かすほどのアレルギー反応を示したことがある方は、ワクチンの接種を受けるべきではありません。重度のアレルギーをお持ちの方は、医師にその旨を伝えてください。
- 過去に受けたMMRまたはMMRVワクチンの接種により命を脅かすほどのアレルギー反応が見られた方は、後続の接種を受けるべきではありません。
- MMRワクチンの接種予定日の時点で体調不良である場合は、体調が回復した後に接種を受けるよう指示されることがあります。
- 妊娠中の女性はMMRワクチンの接種を受けられません。ワクチンの接種が必要な場合は、出産を終えてから接種を受ける必要があります。MMRワクチンの接種を受けた女性は、接種後4週間は避妊するようにしてください。
- ワクチンを受ける人物が以下に該当する場合は、医師にその旨を伝えてください。
  - HIV / AIDS、または免疫システムに影響を及ぼすその他の疾患を患っている
  - 免疫システムに影響を及ぼす薬剤（ステロイドなど）



による治療を受けている

- 何らかの種類のがんを患っている
- 放射線または薬剤によるがん治療を受けている
- 血小板低下（血液疾患）を患ったことがある
- 過去4週間以内に別のワクチン接種を受けた
- 最近輸血を受けた、またはその他の血液製剤を使用した

このいずれかに該当する場合はワクチン接種を受けられない、または接種時期が延期されることがあります。

## 4 MMR ワクチン接種に伴うリスク

他の医薬品と同じく、ワクチンは重度のアレルギー反応といった重篤な問題を引き起こす可能性があります。

MMR ワクチンが深刻な害や死亡を引き起こす危険性は極めて低いものです。

MMR ワクチンの接種は、麻疹や流行性耳下腺炎、風疹にかかること自体よりもはるかに安全です。

MMR ワクチンの接種を受けるほとんどの人において、重篤な問題が発生することはありません。

### 軽度の問題

- 発熱（6人中1人以下）
- 軽度の発疹（約20人中1人）
- 頬や首のリンパ腺の腫れ（約75人中1人）

これらの問題は通常、接種後6～14日以内に見られます。ほとんどの場合、2回目の接種後は発生率が低くなります。

### 中等度の問題

- 発熱による発作（けいれんまたは凝視）（約3,000件の接種中1件）
- 関節の一時的な痛みとこわばり、主に10代の女性または成人女性に見られる（4人中1人以下）
- 一時的な血小板低下、これが血液疾患につながる可能性もある（約30,000件の接種中1件）

### 重度の問題（非常に稀）

- 重度のアレルギー反応（100万件の接種中1件未満）
- MMR ワクチンの接種を受けた小児について、接種後報告されたその他の重度の問題には以下が含まれます。
  - 難聴
  - 長期的な発作、昏睡、意識低下
  - 永久的な脳損傷

これらの問題が発生することは極めて稀であるため、その原因がワクチンかどうかを判別するのは困難です。  
DCH-0454 AUTH: P. H. S., Act 42, Sect. 2126.

## 5 重篤な反応が見られた場合

### 注意すべき症状

- 重度のアレルギー反応の兆候や高熱、言動の変化など、懸念を感じるような症状に注意してください。

重度のアレルギー反応の兆候には、じんましん、顔や喉の腫れ、呼吸困難、動悸、めまい、衰弱などが含まれます。これらの症状は、ワクチンの接種から数分～数時間後に発生します。

### 症状が発生した場合の対処

- 重度なアレルギー反応または一刻を争うその他の緊急事態であると思われる場合は、911番に電話するか、この人物を最寄りの病院まで搬送してください。あるいは担当医に電話してください。
- その後、当該の反応についてワクチン有害事象報告システム（VAERS）に報告する必要があります。この報告は担当医が行うこともありますが、自身で行う場合はVAERSのウェブサイト（[www.vaers.hhs.gov](http://www.vaers.hhs.gov)）を利用するか、1-800-822-7967にお電話ください。

VAERSが医学的な助言を行うことはありません。

## 6 ワクチン健康被害補償プログラム (VICP)

ワクチン健康被害補償プログラム（VICP）は、特定のワクチンにより健康被害を受けた人への補償を目的として策定された連邦プログラムです。

ワクチンにより被害を受けたと思われる方は、電話（1-800-338-2382）またはVICPウェブサイト（[www.hrsa.gov/vaccinecompensation](http://www.hrsa.gov/vaccinecompensation)）を通じてプログラムについて情報を得る、またはクレームを提出することができます。賠償金を求めるクレームの提出には期限があります。

## 7 より詳しい情報を得るには

- 担当医に相談する。ワクチンの添付文書やその他の情報源を入手できる場合があります。1-888-767-4687
- 各地域または州立の保健局に電話をかける。
- 米国疾病管理予防センター（CDC）に連絡する。
  - 電話：1-800-232-4636（1-800-CDC-INFO）
  - CDCのウェブサイト（[www.cdc.gov/vaccines](http://www.cdc.gov/vaccines)）

Vaccine Information Statement (Interim)

## MMR Vaccine

4/20/2012

Japanese

Office Use  
Only



42 U.S.C. § 300aa-26

Translation provided by Hawaii Department of Health